**2016年度事業報告書**

特定非営利活動法人　川崎市民石けんプラント

**1　事業活動成果**

工場の意義といままで活動してきた石けん運動の成果を確認し、前年度に策定した川崎市民石けんプラント設立30周年にむけた「3ヶ年中期計画」にそって活動しました。

石けん事業では、塩浜に工場移転して10年目の総点検をおこない、最大課題である老朽化した機械設備の更新計画を立てることができたのは大きな成果です。

一方では地域活動支援センターに通う利用者とともに日々、石けん製造販売事業、バイオディーゼル燃料化事業をおこない、域内資源循環社会を進めている石けんプラントの活動をアピールし、教育事業をすすめました。

**2　事業内容**

（1）特定非営利活動に係る事業

　①廃食油を回収し、回収した廃食油でリサイクル石けんを製造、販売する事業

・内容

廃食油は川崎市内から約70000ℓ（小学校7割、事業系1割、一般家庭2割）回収し、リサイクル石けん「きなりっこ」やバイオディーゼル燃料を製造し、販売しました。

石けん運動の原点に戻り、石けんの利用促進活動を積極的におこないました。

　　石けんの売り上げは売上目標23,570,000円に対し22,497,455円（前年対比96.2％）でした。主な販売先である学校給食でのきなりっこ供給が前年対比96.1％、運動母体である生活クラブ生協での取り組みも前年度対比95.5％と、ともに落ち込みました。石けん利用拡大の契機にしたいと、開発した液体せっけん「きなり姫」のかわさき限定取り組に向け、準備をすすめました。

働く仲間が増え、石けん製造の複数体制、組織体制の見直しをおこないました。

　石けんの製造：35回のけん化で、63.0トンの石けんを販売しました。

　・日時　　2016年4月から2017年3月まで

　・場所　　川崎市川崎区塩浜2-21-3

　・従事者　9人

　・対象者　一般市民及び団体

　・費用額　17,491,662円

②障害者の地域活動支援センター運営事業

障害者自立支援法(平成17年法律第123号)第81条第1項に基づき地域活動支援センタ

ーサボン草、ならびにサボン草Ⅱを運営しました。

・内容

ア.地域活動支援センターサボン草

新規利用者の2名、退所者は6名で、年度末の登録者数は11名でした。

利用者が大きくいれかわり、年間の1日当たりの平均通所者は7名（前年度7.6名）となり前年度に及びませんでした。金曜のレクレーションは参加者が多く1泊旅行もおこない充実した内容でした。日々のさまざまな石けんプラントの作業を、協力し、おこないました。

サボン草への通所から見えてきたことを、他の支援機関と共有し、連携しました。個別支援計画を形にしたことにより、評価点検ができました。

・日時　　2016年4月から2017年3月まで

　・場所　　川崎市川崎区塩浜2-21-3

　・従事者　7人

　・対象者　通所障がい者

・費用額　14,706,127円

イ.地域活動支援センターサボン草Ⅱ

新規利用者7名、退所者7名で年度末の登録者数は23名でした。

年間の1日当たりの平均通所者は12.0名で、2016年度目標に達しました。

従来の川崎市民石けんプラントとの連携作業に加え、多くの請負作業をおこないました。海産物小分け作業、チラシ挿入作業、“キットパス”（ダストレスチョーク）紙巻、箱入れ作業など細かな作業の請け負い、1,044,340円の収入となりました。

月1回の利用者ミーティング、レクレーション、そして日々の作業の場でも利用者の要望、意見、不満等を聞き、利用者と職員がよい関係を構築し、不調で長期間休んだ利用者以外は安定した通所ができました。

・日時　　2016年4月から2017年3月まで

・場所　　川崎市高津区梶ヶ谷3-1-13、

　・従事者　6人

　・対象者　通所障がい者

　・費用額　18,227,299円

　ア、イ費用額合計32,933,426円

　③環境と福祉の共育センターとして工場を利用した見学、

イベント等の市民活動協力事業

出前講座、工場見学の受け入れを積極的におこない総勢326名の見学者の受け入れをしました。今年度は産業観光ガイドブックを介しての、学生の体験学習型工場見学があり、多種多様な受け入れをおこないました。

工場移転以来行ってきた独自企画の「夏休み環境学習会」、「暮れの大掃除に向けた工場開放」は、11回目となり親子の参加でにぎわい、好評でした。

合成洗剤をやめ、石けんを使用することで水環境問題を考え、川崎の中における

域内資源循環としてのリサイクル石けん｢きなりっこ｣の優位性や二酸化炭素削減

効果が期待できるバイオディーゼル燃料の意義を語りました。かわさき生活クラブ

生協やかわさきかえるプロジェクト・せっけんの家、川崎市職員労働組合、全水道

川崎水道労働組合、川崎地方自治研究センターなどおおくの団体と連携しました。

　・　日時　　2015年4月から2016年3月まで

　・　場所　　川崎市川崎区塩浜2-21-3

　・　従事者　11人

　・　対象者　一般市民及び団体

　・　費用額　156,752円

　④バイオディーゼル燃料化事業

　　利用がすすまず目標は達成出来ませんでしたが安定した品質のバイオディーゼル燃料を製造することができました。調整中であった生活クラブ生協のトラックが加わり5台の車両をBDF\*で稼働させました。サボン草Ⅱのバン、Ｗ.Ｃｏキャリーの配送車、川崎市環境局のスケルトン車など年式が古い車両は、問題なく走行しました。スケルトン車は川崎市南部エリア中心に出前ごみスクールとして稼働し、環境教育に効果的でした。

コモンレール方式の新車使用についてはまだまだ実証実験が必要です。石けんプラントの２ｔトラックは小田原の西湘自動車㈱の協力を得ながら整備・予防整備体制をおこない、継続走行しています。

微力ながら廃食油からのBDF活用を進め地球温暖化防止に貢献できました。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　BDF･･･バイオディーゼル燃料の略称

〇2016年度製造・利用状況

　　　　製造量　 約5110ℓ　　 製造回数57回

　　　　利用量　　5470　ℓ　　CO2削減量　約14.2トン

・日時2016年4月から2017年3月まで

・場所　　川崎市川崎区塩浜2-21-3

　・従事者　4人

　・対象者　一般市民及び団体

　・費用額　1,081,692円

　（2）管理費

　・　日時　　2016年4月から2017年3月まで

　・　場所　　川崎市川崎区塩浜2-21-3

* 費用額　3,548,593円